

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年3月23日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670500224
法人名	医療法人 芳清会
事業所名	グループホーム さくらの丘
所在地	鹿児島県いちき串木野市生福8974番地 (電話) 0996-21-2777
自己評価作成日	平成25年2月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成25年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・母体病院からの24時間医療連携体制、毎日の看護師訪問による健康管理
- ・母体病院からの管理栄養士による献立
- ・感染症予防のため、1日3回の消毒(手すり、扉等の手の触れる箇所等)
- ・年6回以上の行事

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当ホームは、医療法人が母体のため医療連携体制ができています。市街地を巡る「くるくるバス」のバス停がホーム前にあり、利用者やその家族が気軽に利用している。ホームの共用空間や居室は、清潔で感染症予防のため、消毒も行き届いている。
- ・町内会に加入し、近隣住民とは、散歩等でふれあいを楽しんでいる。回覧板等で情報を得ながら、地域の一員として積極的に交流している。
- ・災害対策については、毎年消防署の指導のもと、昼夜間想定した避難訓練を実施、3ヶ月毎に自衛避難訓練も行っている。また地域公民館と連携を図り、地域住民との協力体制もできている。スプリンクラーやオール電化等の安全対策の施設整備も整い、1ユニットに非常出入口が4ヶ所用意されている。
- ・運営推進会議では、外部評価の結果報告や事業所の状況報告がなされ、それをサービスの向上に活かしている。
- ・代表者・管理者は職員の資質向上に力を入れており、研修会などへの参加も奨励している。職員はケア対応等のさらなる向上に意欲的である。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を朝礼で唱和し確認を行っている	職員で話し合っ、地域密着型サービスとの関連性を重視した、独自の理念を作っている。理念を事務室等に掲示し、朝礼時に唱和しケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等の（花見、敬老会）に参加して交流している。	町内会に加入し、地域の行事に参加している。ホーム便り等を地域に配布し日常的に交流している。散歩や買い物の際には、挨拶や会話を楽しんでいる。保育園児等のボランティアを受入れるなど、継続的な交流を行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	四季便りにて行事などを回覧板にてお知らせし気軽に参加して頂けるように心がけている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事に参加していただき情報開示、現状況を説明し意見等をもらっている 改善点等のコメントがあれば次回に活かせるように努めている	会議は定期的開催し、家族代表や地域包括支援センター職員・公民館長等が参加し、外部評価の結果報告や事業運営の報告がなされ意見交換を行っている。ホームについての理解と協力を得ると共に、出された意見をサービスに活かしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	日頃から疑問、相談等、連絡をしアドバイスを受けている	市担当者とは、日頃から困難事例やプランの見直しを相談したり、アドバイスを受けていたりしている。電話でも利用者の暮らしぶりやケアの様子を伝え相談する等、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアル等の確認を行いながら情報共有、意見交換を行っている 玄関施錠は、昼間は常に開放 夜間はスタッフが少人数になり安全と外部からの危険防止のため施錠を行っている	身体拘束廃止委員会を設け、マニュアルを基本に年3回勉強会を実施し、言葉使いも含め利用者の心身の拘束をしないケアについて意見交換をして、職員の共通認識を図っている。昼間の玄関は施錠せずに、職員間の連携で安全な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料等により知識を得ながら見過ごすことのないように十分に注意を払っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在対象者はいないが、自施設内研修や資料等で知識を得るようにしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入退居時に契約書に伴い説明を行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者側から希望や伝えたいことは職員に話をしている また対応しかねる内容は、管理者が応じている	日頃から、利用者が何でも言える雰囲気作りに留意している。家族会や面会の機会に思いや要望等を言いやすい雰囲気作りに工夫している。面会に来れない家族には、電話や便りを出して思いを聞いている。出された意見や要望等は、職員で話し合い反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回のユニット会議及び全体会議を行っている	代表者や管理者は、全体会議やユニット会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。管理者は日頃からコミュニケーションを取るよう心がけ、出された意見や要望等は、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	適材適所を考え、個人の評価、意見を聞きながら行っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の日程を前もって通達し、出席を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を研修会などを通して行っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話の機会を多く持ち、安心して生活できるような信頼関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様に、面会時に会話を交わしながら、少しずつ関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず1番に必要な支援について本人、家族と相談し希望に沿えるような支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活パターンを大切にできる範囲の作業をスタッフと一緒にしてもらっている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の便りで状態、様子を伝え、面会時には気軽に声をかけてもらえるように努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出泊は自由なので、面会時等、好きな場所で過ごしてもらえるように努めている	地域の花見や敬老会に出かけたり、馴染の知人や行きつけの理・美容院などとの関係を継続できるように支援している。家族の協力を得て、外泊や墓参も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶時間やレクリエーション等を通して 他入居者と一緒に過ごしコミュニケーションがとれるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族の希望に応じて継続的に、相談支援に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時、本人、家族から希望、要望を聞いている 困難時は、随時もしくは定期的にカンファレンスを行い対応している	日々の関わりの中で言葉や表情などから思いや意向の把握に努めている。また、本人の意向等について、家族や関係者から聴取して記録し、申し送りなどで情報を共有し、本人本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、前生活のサマリー等で職員は共有し、後は本人家族からの情報収集に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、午前と午後のバイタルチェックや声かけで、表情確認等で把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活のケアより課題を見出し本人、家族希望・意見を聞きいている 随時もしくは定期的に、カンファレンスを行いプランに取り入れている	本人や家族・その他必要な関係者と話し合い、記録や連絡ノートからの情報も加え、介護計画を作成している。モニタリングやカンファレンスは3ヶ月毎に実施し、変化があればそのつど見直し、現状に即した介護計画である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の他に看護記録、ユニット送りノートで情報を共有できるよう記録を行い活かせるように努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズには可能な限り対応しているが、困難な場合は、理由等の説明を行い理解が得られるように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が希望する本は市立図書館、散髪は地域出張を利用している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望通りに行っている	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診が、継続できるように支援している。協力医療機関の定期健診もあり、連携を取りながら適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、母体病院より医療連携体制にて正看護師訪問し健康管理を行っている 情報共有のため送りノートを中心に情報交換を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供書を作成 また、面会時は情報交換を行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人と家族の意向を大切に希望に沿えるように主治医と相談しながら取り組んでいる	重度化や終末期については、本人や家族とよく話し合うとともに、対応の指針を説明し、同意書をもっている。また状況に応じ、主治医と相談しながら話し合い、職員全員がその方針を共通認識している。現在まで、8件の看取り支援の事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルにて常時シュミレーション、マニュアル確認を行い、状況に応じて母体病院院長に指示、指導を受けている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自衛避難訓練を繰り返しながら災害時に備えている 年1回の消防立会の訓練も行いアドバイス等受けている	毎年、消防署の指導のもと、昼・夜間の想定した避難訓練を実施している。また、地域公民館と連携を図り、住民との協力体制もできている。さらに、3ヶ月毎に夜間想定した自衛避難訓練を実施している。災害時の食料等の備蓄もある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使い、態度に気をつけ利用者個人々に合わせた声かけを心がけている	日々の関わりの中で、利用者の尊厳とプライバシーに配慮し、わかりやすい言葉を使ったり、声かけは本人の気持ちを大切にさりげないケアを行っている。職員の採用時、個人情報保護についての誓約書もとっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を踏まえて自己決定ができるような声かけに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時には業務を優先しないといけない状況もあるが、できるだけ本人の希望に沿えるように心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	各居室に洗面台設置にて自由に身だしなみができる また希望に合わせて理美容室に外出、もしくは主張サービスを利用している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好、状態に応じて食べやすいように工夫している できることは手伝ってもらっている	利用者の嗜好を聞いて献立に取り入れている。利用者の個々の力を活かしながら、梅干し作りやツワの皮むきなど、職員と一緒にに行っている。誕生会や行事食の献立は、利用者の希望を聞いている。外食に出かけたりして、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士より計算された献立で支援している また状態に応じて相談を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけ（介助）を行い、夕食後は入れ歯洗浄剤にて対応している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、定期的に声かけを行っている 入居者一人々のをパターンを把握し状況に応じ自立に向けた声かけ介助に取り組んでいる	自尊心に配慮しながら、トイレでの排泄を大切にしている。排泄チェック表等を活用し、表情や些細な情報を職員で共有しトイレへの声かけや誘導を行っている。入所時のおむつ使用者もリハビリパンツに移行でき、利用者や家族に喜ばれている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、水分補給、腹部マッサージ等行っている 状態により主治医に相談し内服にて調整している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	できるだけ、希望に沿えるように取り組んでいる 曜日、時間変更等の希望がある場合はできるだけ希望に沿えるように努めている	入浴日は週3回だが、個々の希望に添った入浴ができるように支援している。一人ひとりお湯の入れ替えをし衛生面に気を使い、入浴を楽しめるよう支援している。入浴を嫌がる利用者には、職員間で連携して時間をずらすなど工夫して、入浴ができるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者に応じた声かけを行っている 夜間眠れない利用者は主治医に相談し内服の処方等にて対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明書を個人タファイルに添付し、いつでも確認できるようにしてあり把握に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることは、お願いしている 季節に応じ行事、ドライブ 誕生日には手作りケーキ等、 写真撮影をし祝っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出泊は基本自由である 正月、お盆等は本人希望、 家族と相談し支援している	利用者の体調や天気を配慮して、近隣や庭内の散歩をしたり、デッキで季節の風を感じたりしている。また、近くへ買い物やドライブに出かけている。年間計画を立てて、地域のイベントや花見・みかん狩りにも参加している。家族の協力を得て、墓参や外泊・外食等も支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの利用者が金銭管理ができないため家族の了解を得て、預かり金として事務所金庫にて預かっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙の代筆（読）、電話使用は自由で希望時に支援している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清潔を保っている フロアには空気清浄機、加湿器で快適に過ごせる空間作りに努めている 玄関、フロア等に花を飾り季節を感じてもらっている	共用空間は、天井が高く開放的で、換気や採光に配慮し、温度や湿度の設定がしてある。玄関やフロアには花が飾られ、中庭を囲むように居室が作られている。フロアにはソファが多数置かれ、好きな場所でゆっくりと過ごせるよう配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、自席空間とソファ空間があり、入居者は思い々に過ごせる様に工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	電化製品、家具など使い慣れた品物を持ち込んでもらっている	居室はテレビや寝具・家族写真・位牌等の大切な物や馴染みのものが置いてある。ボードには行事の写真や貼り絵等の自作の作品が飾られ、ハンガーには何時でも外出できる様に衣服がかけられ、利用者が安心して過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状態に合わせて安全に生活できるように、状況に応じてベッド、家具等の配置を家族スタッフと相談、検討し対応している		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない